

学校・家庭・地域に役立つ

# 家庭教育支援 ガイドブック

家庭の教育力 UP↑  
地域の教育力 UP↑

子どものために  
保護者に伝えたい  
こんなこと

保護者に  
わかってほしい  
あんなこと

学校・公民館・  
図書館等の講座や  
講演に使える

学年・学級の  
お便りに使える

就学時健診や  
入学説明会の  
講話・指導  
資料に最適



よしっ!これは使える!

- 家庭でこれだけは身につけさせたい生活習慣で大切なこと
- 子どもの伸びる力を家庭から引き出す
- 学校・家庭・地域のスムーズな連携をより一層進めるために

コピー  
ダウンロード  
OK

# 目次

- このガイドブックをつくった理由
- 家庭への情報提供に役立ちます!
- 「生活」「こころ」「つながり」に関連し、家庭で大切にしてほしいこと
- 家庭教育講座資料
- 参加型家庭教育講座 プログラム例
- 活用事例
- 参考
  - ・家庭における人権教育
  - ・始めましょう 家庭で読書
  - ・家庭教育支援の推進に関する検討委員会報告書の概要
  - ・家庭教育支援に役立つ情報リンク集
  - ・子どもたちにもっと体験活動を!



# このガイドブックをつくった理由

## ✿家庭教育はとても大切

家庭教育は、父母その他の保護者が、子どもに対して行う教育です。家庭教育は、乳幼児期からの愛情による絆で結ばれた家族とのふれ合いを通じて、子どもが基本的な生活習慣・生活能力、人に対する信頼感、豊かな情操、他人に対する思いやりや善悪の判断などの基本的倫理観、自立心や自制心、社会的なマナーなどを身につける上での重要な役割を担っています。

## ✿現代の危機的な家庭教育事情

社会の急速な変化により家庭や地域の環境も変わり、今までの家庭教育をそのまま進めることが困難な家庭が多くなっています。

子育てについての不安や孤立を感じていたり、子育ての放任や過保護、虐待等により、基本的な生活習慣や社会性・自立心の育成に課題を抱えていたりする家庭もあります。



## ✿家庭教育支援の必要性

このような家庭教育の危機的な現状をふまえ、平成18年の教育基本法の改正により、下記のように新しく「家庭教育」や「学校・家庭・地域の連携協力」に関する条文が規定されました。

### ○教育基本法

(家庭教育)

第10条 父母その他の保護者は、子の教育について第一義的責任を有するものであって、生活のために必要な習慣を身に付けさせるとともに、自立心を育成し、心身の調和のとれた発達を図るよう努めるものとする。

2 国及び地方公共団体は、家庭教育の自主性を尊重しつつ、保護者に対する学習の機会及び情報の提供その他の家庭教育を支援するために必要な施策を講ずるよう努めなければならない。

(学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力)

第13条 学校、家庭及び地域住民その他の関係者は、教育におけるそれぞれの役割と責任を自覚するとともに、相互の連携及び協力を努めるものとする。

また、第2期教育振興基本計画では、学習機会を提供する多様な場の一つとして、親とつながりやすい学校という場があげられています。

### ○第2期教育振興基本計画(基本施策22 豊かなつながりの中での家庭教育支援の充実)

【基本的考え方】

「…地域や学校をはじめとする豊かなつながりの中で家庭教育が行われるよう、親子の育ちを応援する学習機会を充実するとともに、コミュニティの協働による家庭教育支援を強化する。」

【主な取組】

- 家庭教育の担い手である親の学びを応援するため、子育て経験者などの地域人材を生かし、小学校等の地域の身近な場において、親が交流・相談できる拠点機能を整備するなど、家庭教育支援体制の強化に向けた取組を促進する。
- さらに、公民館、図書館等の社会教育施設における学習機会の提供のみならず、PTA等とも連携し、親とつながりやすい学校という場や、子育て広場、職場等の多様な場を活用した学習機会の拡大に向けて取組手法の普及等を行う。

「第2期教育振興基本計画(平成25年6月閣議決定)より引用」

## ＊保護者は情報を求めています

子育てに関し、保護者がほしいと思っている情報

### 第1位 「子どものしつけや教育」

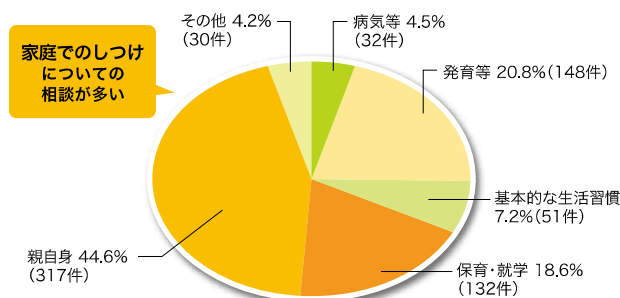
第2位「子どものけがや病気」

第3位「子どもの発育や発達」

第4位「子どもの遊び場について」

「子ども・子育て支援に関する県民ニーズ調査」(平成25年度)

相談内容(合計710件)



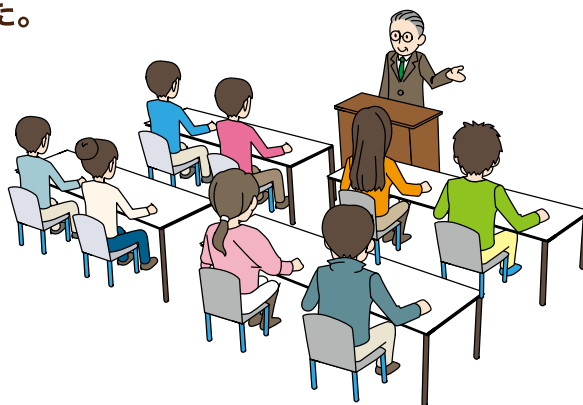
家庭教育・子育て電話相談「すこやかコール」(平成26年度)

子どもの健やかな成長のためには、保護者が家庭での教育やしつけについて学んでいく必要があります。

## ＊学校からの家庭教育に関する情報提供

日常的に子どもや保護者と接している学校では、これまでも様々な場面で、家庭教育に関する情報を提供してきました。

- ◆就学時健康診断
- ◆入学説明会などの機会を活用
- ◆学力向上
- ◆基本的な生活習慣
- ◆健康・安全
- ◆生徒指導などに関連した情報



学校と家庭が連携・協力して子どもを育てていくためにも、学校から家庭に情報提供し、共通理解を図ることが重要です。

そこで、新潟県教育委員会では、保護者への情報提供に役立つ「家庭教育支援ガイドブック」を作成しました。コピーやダウンロードをして、手軽に配付できる保護者向けの啓発資料のほか、参加型家庭教育講座プログラム例や小学校での活用事例を掲載しています。

PTA等と連携した活動はもちろん、様々な機会でも、ぜひご活用ください。

新潟県 家庭教育支援ガイドブック [検索](#)

このガイドブックが保護者とのより良い信頼関係を築いていくきっかけとなり、すべての保護者の学びにつながることを期待しています。

# 家庭への情報提供に役立ちます！

# 「生活」「こころ」「つながり」に関連し 家庭で大切にしてほしいこと

## 多様な活用場面で

こんな学校現場からの声に応えます

あいさつ運動を学校だけでなく、  
家庭や地域に広げたい。

▶資料No. **3**

朝から眠そうに  
している子がいて心配。  
おうちの方に伝える  
いい情報はないかな。

▶資料No. **1・2**

子どもの自己肯定感や  
自己有用感を育むために  
保護者に情報提供したい。

▶資料No. **6・7・  
8・9・10**

入学前に保護者との間で  
共通理解を図り  
子どもの成長を支えたい。

▶資料No. **2・4・9・11**  
▶参加型家庭教育講座  
プログラム例

保護者から学習参観や  
各行事に参加してもらい  
子どもの様子をもっと見てほしい。

▶資料No. **15**  
▶参加型家庭教育講座  
プログラム例

春・夏・秋・冬  
いつでも使えます！



コピー  
ダウンロード  
OK

組み合わせも自由自在！様々な機会に活用できます

例えば

学習  
強化週間

▶資料No. **5**

ノーマディヤ  
週間

▶資料No. **13**

いじめ  
見逃しゼロ  
強化月間

▶資料No. **12・8**

長期  
休業の前

▶資料No. **9・10**

PTA行事

▶資料No. **14・15**

生活リズム  
向上週間

▶資料No. **2**

## 1 睡眠ってこんなに大切



## 2 規則正しい生活リズムをつくるポイント



## 3 あいさつで築く人間関係



## 4 素直に言えるようになりたい 大事な言葉「ありがとう」「ごめんねさい」

## 5 子どものやる気をサポート



## 6 自立した子を育てる 親のかかわり方



## 7 話の聞き方で心をつなぐ



## 8 話を聞くときのポイント



## 9 ほめることの効果



## 10 お手伝いができる子に



## 11 子育てで大事なことは、 さじ加減



## 12 子どもと一緒に いじめについて考えてみましょう



## 13 子どもに身近な インターネット



## 14 見てますよ聞いてますよ



## 15 豊かなつながりの中で親も子も育つ

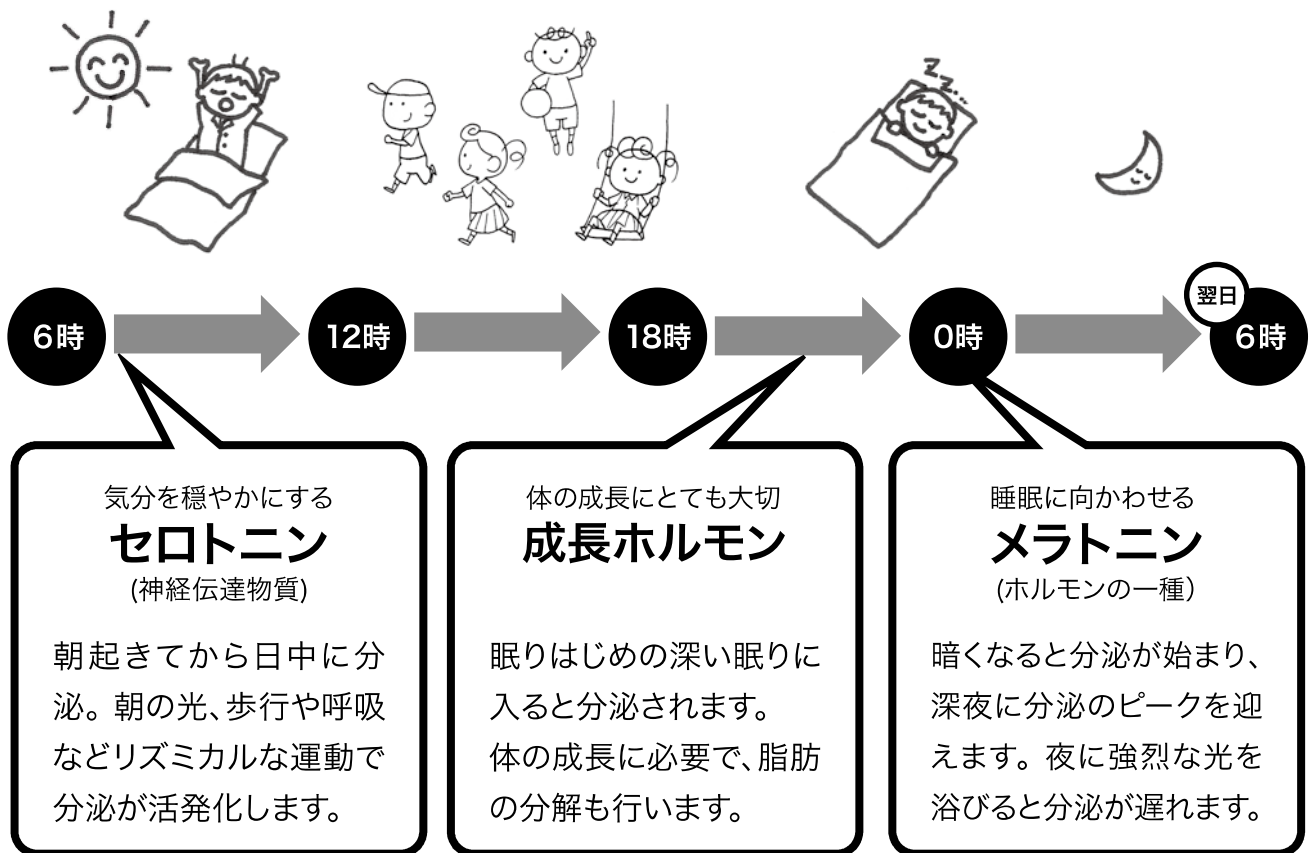
## 睡眠ってこんなに大切

子どもにとって睡眠は、心身を休息させて疲れをとると同時に体をつくり、脳を発達させる大切な働きをもっています。

### 眠っている間にこんなことが起きています



- 小学生の睡眠時間は低学年で9～10時間、高学年では8～9時間が理想といわれています
- 睡眠時間だけでなく、21～22時までに就寝することも大切です
- すぐに眠れなくても、暗くして布団に入るなどの眠る準備を心がけましょう



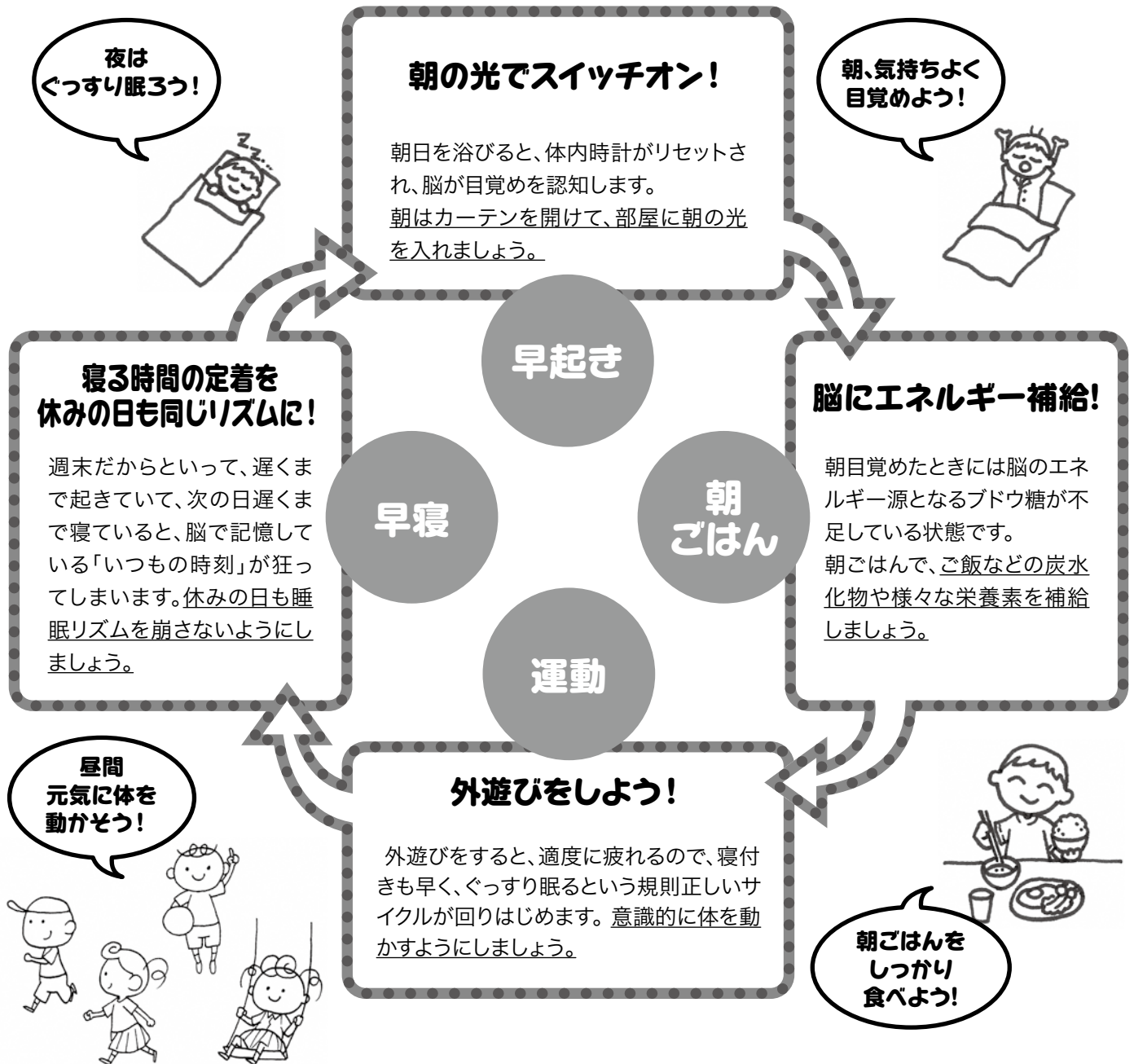
寝不足や不規則な睡眠リズムは、成長に欠かせないホルモンの分泌に影響を与えてしまい、心身の健康を損なう恐れがあるといわれています

### 睡眠によって心も体もつくられます

# 規則正しい生活リズムをつくるポイント

子どもの生活習慣の乱れが学習意欲、気力、体力の低下の要因の一つとして指摘されています。

子どもたちが健やかに成長していくためには、規則正しい生活リズムを身に付けることが大切です。



**生活リズムを整えることは、子どもたちの心と体の「元気」につながります**

# あいさつで築く人間関係

## あいさつができるようになるにはこんな順序があります



**1** まずは家族の間で  
あいさつが自然にできるように  
しましょう

**3** お手本を示しながら、  
子どもと一緒にあいさつが  
できたときは、しっかり  
ほめてあげましょう

**2** 地域では、親があいさつの  
お手本を示しましょう

**4** 子どもが1人でもあいさつ  
できるようになります

### あいさつでつながる心

- 知り合うきっかけになる
- 気持ちがよくなる
- 体の調子や機嫌がわかる
- 話しやすくなる

### 心をつなぐいろんな言葉

- ★さようなら
- ★いただきます
- ★ごちそうさまでした
- ★おやすみなさい
- ★ありがとう
- ★ごめんなさい

## 防犯上の効果あり

**1** きちんとあいさつできる子は  
声を出せる子なので、  
不審者に狙われにくいと  
言われています



**2** あいさつをすることで近所の人  
がどこの子かわかり、何かあったときに  
情報収集がしやすくなります



〇〇ちゃんは  
友だちと3時頃に  
ここを通ったわよ



言うにはちょっと勇気がいるけれど、言われると心が温かくなったり、緊張がホッと緩んだりする思いやりの言葉があります。

## 素直に言えるようになりたい大事な言葉 「ありがとう」「ごめんなさい」



日頃から耳にしない言葉は、  
うまく使えるようには  
なりません

- ★「ありがとう」を言う場面はたくさんあります  
親がお手本を見せましょう
- ★家族や夫婦で、ささいなことでも日頃から「ありがとう」と言う習慣をつけましょう

## 家庭で、日常的に耳にすることで、 どんなときにどんなふうに使うのかを覚えます

- ★「ごめんなさい」も大人のお手本が大切です
- ★謝罪を受け入れる姿も見せましょう



ごめんなさい

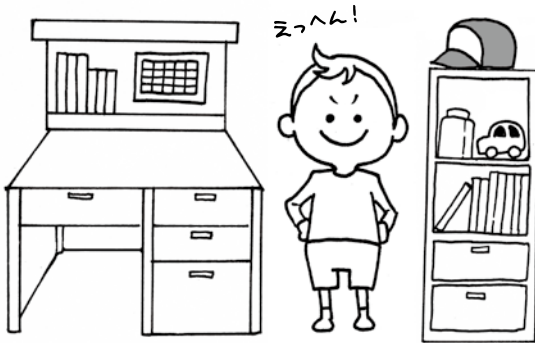
- ・悪いことしちゃった
- ・心配かけちゃった
- ・迷惑かけちゃった

心を込めて言えると相手の心に伝わります

# 子どものやる気をサポート

「良い学びは良い環境から」と言われるように、子どもが生活や学習の習慣を身に付けていくためには、子どものやる気を育てることが大切です。

## 活動する場所の環境づくり



**自分の持ち物を自分で整理整頓できるようになると…**

- 使いたい物がすぐに用意できる
- 始めようと思ったときにすぐに取りかかれる
- 学校へ行く準備がスムーズにできる
- 忘れ物が少なくなる
- 物を大切にする

など

**はじめは、親と一緒に片付け、徐々に一人でできるようにしましょう**

## やる気を育てる心の環境づくり

例えば、毎日の宿題をする時、どんな声をかけたらいいでしょう。



**子どもに考えさせましょう。自分で決めた方が、集中しやすく、はかどります**

生活や学習の習慣は、小さい頃からの積み重ねによって身に付きます。

子どもの小さながんばりを見逃さず、その時、ほめる言葉や励ましの言葉をかけながら、長い目で見守り、根気よくサポートしていきましょう。

## 「やらされてる感」より「やっている感」

# 自立した子を育てる 親のかかわり方



## 日頃から心がけておきたいこと

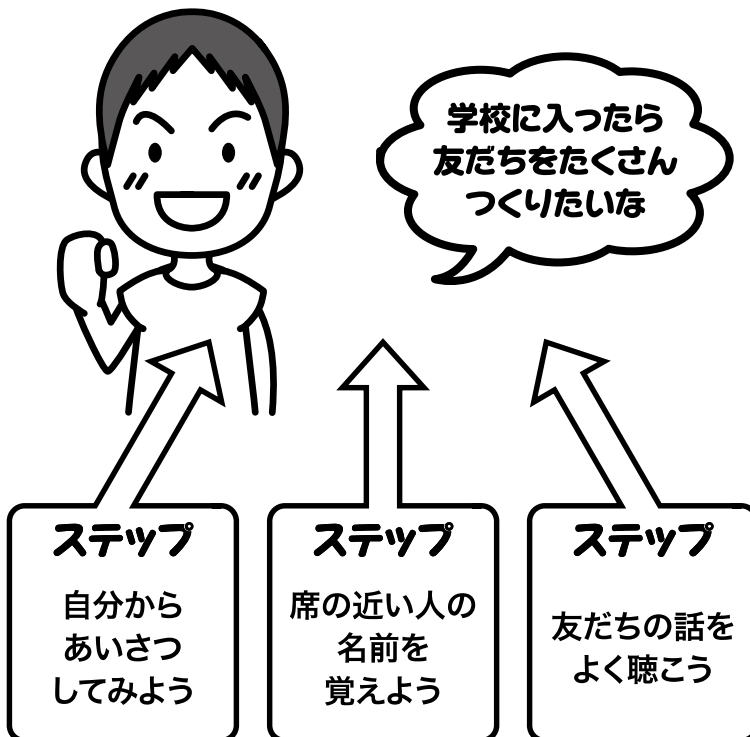


- ★子どもの話をよく聞いて、信頼関係を築きましょう
- ★当たり前のことやできたことをほめて、自信を持たせましょう

自分からやろうと決めたことを、**親が見守り、励ます姿勢が大事です**

子どもが自分から「～したい」と言ったときが、**伸びるチャンスです**

## 例えばこんな場合



## 親ができる手助け



- ① どうしたらできるようになるか、どんなことをがんばるか、相談にのって一緒に考える。

### 具体的なステップを考える

- ② 自分にできそうなものを子ども自身に選ばせる。

### 自分でやろうと思わせることがポイント

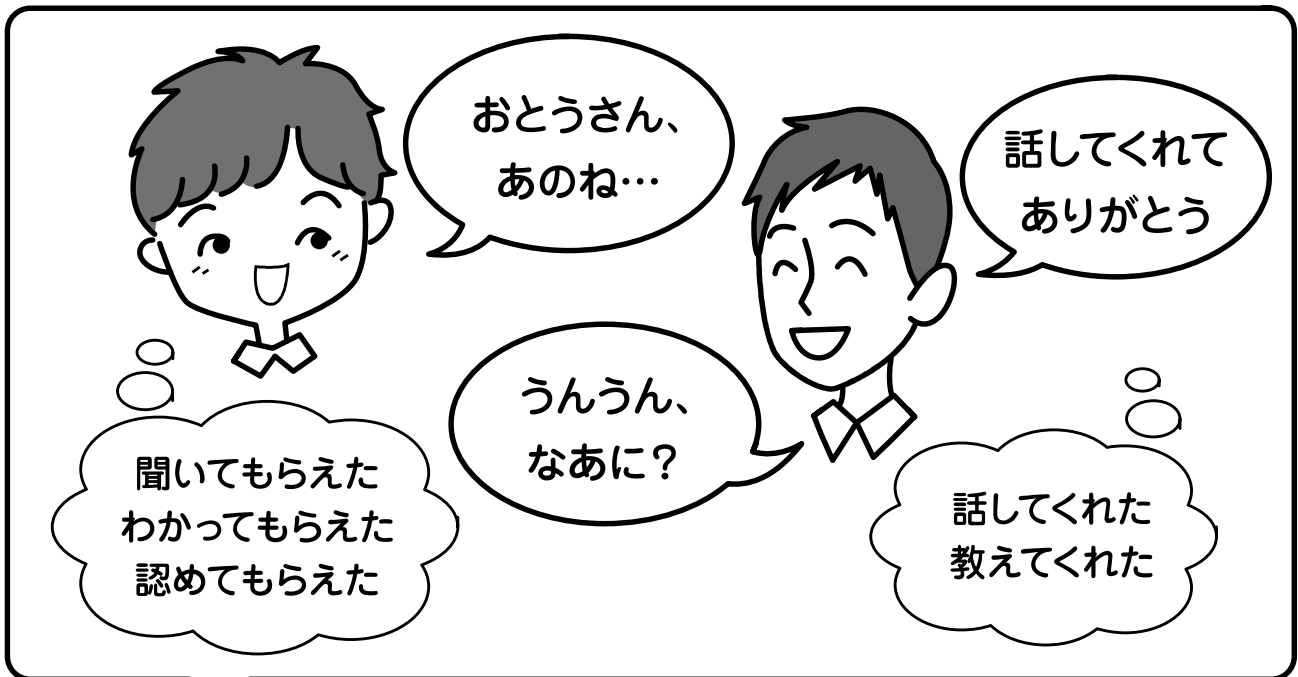
- ③ ステップが少しでもできたら、ほめて励ます。

### 励ますことが、またがんばろうという意欲につながる

- ④ 決めたことを達成できたら、がんばった子ども自身をほめる。

**親がさせるのではなく  
子どもの「自分でできた!」を大切にする**

## 話の聞き方で心をつなぐ



聞いてもらうことで  
安心感を持ち、もっと  
話せるようになります

わかってもらえることで  
相手に対する  
信頼感が育ちます

会話を通して親子の  
信頼関係が築けます

### ＊聞くときのポイント

- ① 忙しくても手を止めて顔を見て聞く
- ② 話の途中で口を挟まず、最後まで聞く
- ③ 話を聞いたら、まずは気持ちを受け止めて共感する
- ④ 親の価値観を押し付けない
- ⑤ 伝えたいことは「私なら～するよ」  
「私は～がいいと思うよ」と私（アイ）メッセージで伝える

「聞いてもらえた」「話してくれた」の  
気持ちを大切に  
した  
会話を心がけましょう

言葉のボールをキャッチして、  
心もしっかり受け止めましょう



怒っているときの言葉は  
キャッチできません



# 話を聞くときのポイント

## 子どもが話しかけてきたときは、一旦手を止めて聞きましょう

- 話の途中で口を挟まず、最後まで聞く
- 話を聞いたら、まずは気持ちを受け止めて共感する
- 親の価値観を押しつけない
- 言いたいことは私(I)メッセージで伝える
- あなたが... (You)メッセージにならないようにしましょう

### でも、どうしても手が離せないときは...

- 作業の途中で子どもが話しかけてきたら...
- 話を聞きたいという気持ちが伝わるように
- 何の話をしたのかだけは聞いておきましょう
- 作業の後には必ずしっかり聞きましょう

## 聞いてもらっていると、しっかり聞くことができます

- 今は他の人が発言しているので最後まで聞きましょう
- 今お兄ちゃんと話してるから待っててお母さん
- good job!

## 家庭での会話がいろいろな場面に生きてきます

## ほめることの効果

どんなふうに  
ほめたらいいのかしら  
悪いところが  
目についちゃって..



こんなふうに思うことはありませんか？

### ほめる内容は当たり前のことでもいいのです

- ① 今できていることを認めてほめる
- ② その子自身の過去と比べて、伸びたことを見つけてほめる

今日のあいさつは  
元気でいいね

いつもより早く  
起きられたね

ちょっとしたこと  
でもいいのね



大事なことはその子自身を認めてほめることです。子どもの「すごい」「さすが」「素晴らしい」をたくさん見つけて、言葉で伝えましょう。

### ほめられることによって心に変化が生まれます

うれしい!



また、  
がんばろう!

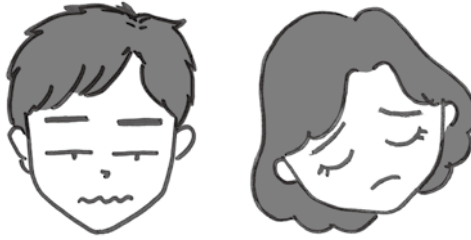
もっと  
できるかも!

- ➡ 気持ちがポジティブになる
- ➡ 前向きに物事に取り組める
- ➡ 「挑戦しよう」という意欲がもてる
- ➡ 自分は大切な存在だと思える
- ➡ 自分に自信がもてる
- ➡ 学習が身につくやすくなる

自信をもって物事に取り組める自立した子に

# お手伝いができる子に

うちの子は遊んでばかりで、家の手伝いなんてしてくれない



子どもにさせると時間がかかって面倒で、自分でした方が早いし…

そうは言ってみるものの…

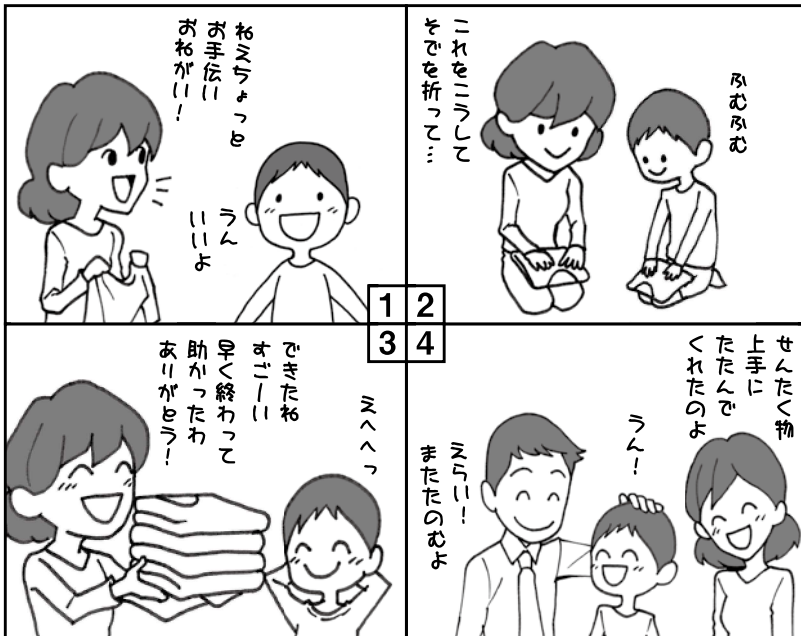
## 将来のことを考えるといろいろできるようになってほしい

○ お子さんに「できそうなお手伝い」「させたいお手伝い」は何ですか。書き出してみましょう。○

※お手伝いは、家族の一員としてみんなに関わることを考えて選びましょう。

## お手伝い大作戦

☆ていねいに教える



☆一言添えて、ほめる

☆家族に知らせていっぱいほめる

うまくできなくてイライラすることもあります。でも失敗を叱るよりも、できた所まではほめて、次はどうしたらできるようになるかを一緒に考えることが成長につながります。

### お手伝いの極意 その1

簡単なことから始めて、たくさんほめてできることを増やしていく。

### お手伝いの極意 その2

初めてのことは、教える人に時間と気持ちの余裕があるときに挑戦する。

### お手伝いの極意 その3

できるようになったことは任せる。自分からしてくれるように頼りにする。

# 子育てで大事なことは、さじ加減

子育てでは  
「過保護はよくない」と  
言うけれど、  
どんなことに  
気をつけたらいいの？



## 子育てで大事にしたい4つの要素

### 世話

- ・世話をすることは乳幼児期には重要であるが、その子の成長に合わせて徐々に手を離し「自分のことは自分でできる」ように自立させていくことが大切
- ・お手本を見せながら、ていねいに教えてできることを増やす。失敗しても責めずに繰り返し教え、できたらほめることで自信をもたせることが必要

### 指示

- ・親は先回りして指示を出してしまいがちだが、失敗することも成長には必要と考えると見守る場面も大切
- ・指示されて行動することが多いと、自分で考えて行動する力が育ちにくい
- ・子どもは指示されて行動して失敗すると、自分の責任ではなく、ほかの人のせいにするようになる

### 授与

- ・欲しい物が本当に必要なものか、一緒に考えることが大切
- ・欲しがるものを何でも与えると、感謝する気持ちや物のありがたさや大切にしている気持ちが育ちにくい
- ・我慢することも心を成長させるためには必要

### 受容

- ・その子自身を認め受容することが大切
- ・日頃の子どもの様子をよく見て、その子自身の思いや成長を受容し、ほかの人の迷惑を考えない自己中心的な行動は許さないき然とした態度をとることが重要

## 子どもに合わせたさじ加減で上手に子育て



# 子どもと一緒に、いじめについて考えてみましょう

## 1 いじめは大きな社会問題

いじめは、どの子どもにも、どの学校でも起こりうる問題です

具体的ないじめの例

- ・ 冷やかしやからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる
- ・ 仲間はずれ、集団による無視をされる
- ・ 軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする
- ・ 金品を隠されたり、壊されたり、捨てられたりする
- ・ 嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたりさせられたりする
- ・ パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷や嫌なことをされる など

### いじめ防止対策推進法が施行されました(平成25年9月)

いじめの防止、早期発見及び対処のための対策を、行政、学校、地域住民、家庭その他の関係者の連携の下、総合的かつ効果的に推進することを目的として、法律で改めて定められました。

(いじめの禁止) 第4条 児童等は、いじめを行ってはならない。

#### ◇保護者に対しては次のようなことが定められています

- 児童等がいじめを行うことのないよう、規範意識を養うための指導その他の必要な指導を行うよう努める
- 児童等がいじめを受けた場合には、適切にいじめから保護する
- (国・県・市町村や)学校が講ずるいじめの防止等のための措置に協力するよう努める



## 2 いじめについて、家庭で具体的に話し合みましょう

日頃から、親子の会話を大切に、何でも話せる関係を築きましょう。いじめについても話題にして、子どもの様子や考えを把握しておきましょう。また、どんな理由であってもいじめは絶対に許されない行為であることを子どもに教えましょう。

#### 「遊びや冗談のつもりだった」は通用しない

ふざけてやったことでも、相手がいじめと感じたら、それはいじめです。遊びや冗談のつもりが、ときには相手の命にかかわることにつながる場合があります。

- 24時間子供SOSダイヤル(毎日24時間)  
TEL 0120-0-78310
- 県立教育センターいじめ・不登校等悩み事相談テレフォン  
TEL 025-263-4737(平日9:10~16:00)

#### いじめられているのかも…と感じたら

子どもの日頃の様子をよく見て、一人で抱え込まないように声をかけて、話し合ったり、学校に相談したりしましょう。下記の電話相談もあります。

- 新潟県いじめ相談電話(毎日24時間)  
TEL 025-526-9378(上越)  
TEL 0258-35-3930(中越)  
TEL 0254-26-7509(下越)



学校・家庭・地域が連携して子どもを見守り、子どもたちの社会性を育みましょう。  
新潟県では「いじめ見逃しゼロ県民運動」を推進しています。

# 子どもに身近なインターネット

子どものまわりには、インターネットにつながる端末がたくさんあります。学習や生活に役立つ情報が簡単に得られる反面、携帯依存症やアクセスによる問題など大きな社会問題に発展してしまう場合があります。



携帯型ゲーム機



スマートフォン  
携帯電話等



コンピュータ  
タブレットなど



音楽プレーヤー

## 子どもが陥りやすいトラブル

ネット上での書き込み等によるいじめ

高額な  
利用料請求書

不審者からの  
誘い出し

個人情報の  
流出

子どもたちが将来、常に正しく安全にインターネットを使えるようにするために、子どもの発達に合わせたインターネット環境を整えましょう。

### 家庭で設定できる ゲーム機などの機能制限

ゲームでインターネットを見たり、知らない人と通信することなどを制限できる機能があります(ゲーム機によって異なります)

### 電話会社で設定できる 接続機能の制限(フィルタリング)

スマートフォンや携帯電話などでインターネットへの接続や閲覧できるページを制限できる機能があります

## インターネットを適切に利用するための 我が家のルールを決めておきましょう。

### 例えば

- 食事の時間にはしない
- 夜は21時までにする
- 1日〇時間以内にする
- 充電器は居間に置く
- パスワードは共有するか親に知らせる
- メールやラインなどで人の悪口などは打ち込まない
- 知らない人からのメールは削除する
- 使用できない場所では使わない(マナーモードを活用する)
- 有料アプリ有料サイトの利用は親と相談する
- インターネットで知り合った人とは会わない
- ルールを守れないときは、一時利用禁止にする

**ルールはたくさん考えられますが、親が押しつけて決めるのではなく、家庭や子どもの状況に応じて子どもと相談して決めましょう**

# 子どもに身近なインターネット



子どものまわりには、インターネットにつながる端末がたくさんあります。学習や生活に役立つ情報が簡単に得られる反面、依存症やネット内による問題に巻き込まれる状況が増えています。

## 【正しく使えば役立つ道具】

一人一台端末での学習は、今や全国各地で実施されています。ICT を活用することは、興味・関心を高め、分かりやすい授業や深い学びの実現を行うことにつながります。正しく使うことで、とても便利な道具と言えます。

### 子どもが陥りやすいトラブル例

ネット上での  
いじめ



高額な課金や  
請求書



写真や動画の  
個人情報の流出



ネット依存による  
生活習慣の乱れや  
情緒不安定



こうならない  
ため

## インターネットを適切に利用するための我が家のルールづくり！

例

- 食事の時間はしない
- メールやラインなどで人の悪口を書き込まない
- 夜は21時までにする（1日 ◎時間以内にする）
- 知らない人からのメールは削除する
- 有料アプリ、有料サイトの利用は、親と相談する
- 充電器は居間に置く
- インターネットで知り合った人とは、会わない
- パスワードは親が管理する
- メールやSNSでメッセージや画像を送る時は、今一度適切なものか見直す
- ルールを守れないときは、再度話し合う

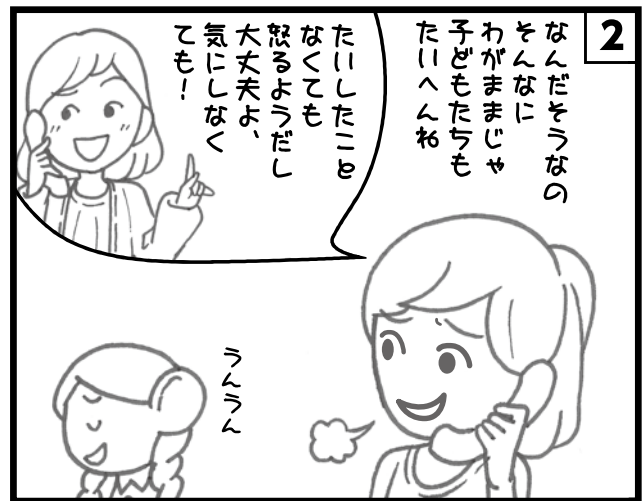
### 【利用の約束】

子どもたちが、常に正しく安全にインターネットを使えるようにするために、子どもの発達に合わせた環境を整えることが大切です。



**ルールを決めるには、親が押しつけて決めるのではなく、家庭や子どもの状況に応じて子どもと相談して決めることが大切です。**

# 見てますよ 聞いてますよ



## 子どもは親の鏡

上記の例のように親が友だちを悪く言えば、子どもも友だちのことを悪く言うことを当然に感じてしまうことは少なくありません。それは友だちだけでなく、先生や近所の人でも同じです。

日頃から、人のよいところを見つけて、認めるプラスの言葉を使うように親が心がける事で、子どもも自然と人のよいところを見つけられるようになります。そして人との友好的な関係を築く力を育むことにもつながるでしょう。

**子どもの前では、人のことを批判する言葉は慎みましょう**

# 豊かなつながりの中で親も子も育つ

小学生になると、子どもの活動の場が広がるとともに、保護者も学校行事やPTA活動、地域活動などに参加する機会が増えてきます。

子どもは家庭の外でいろいろな経験をすることにより、社会のルールやマナーを学んでいきます。

親子で積極的にいろいろな活動に参加しましょう。

## おたより

学校だより、学年だより、保健だより、給食だより及び回覧板などは、役立つ情報満載です。ぜひ目を通して、学校や地域の情報を仕入れ、生かしましょう。

## 学校行事

運動会や発表会などのほか学校や地域の特色を生かした様々な行事があります。子どもの頑張りを見届け、その成長を確認する機会でもあります。

## 学習参観

学習の様子、子どもの特徴、担任や友達との人間関係、学級の雰囲気などを知ることができます。参観後に、他の保護者と情報交換するのもいいですね。

## PTA活動

PTAは、保護者と教職員が協力して、子どもたちの健全育成を図ることを目的としています。全体の行事や活動のほか、学年(学級)PTAなどもあります。親子のふれあいを楽しんだり、子どもの現状や接し方を学んだり、様々な取組があります。

## 地域行事

子ども会や自治会(町内会)の行事や奉仕活動等、学校や家庭では味わえない、豊かな体験の機会が数多くあります。親子で楽しく参加しましょう。

## ボランティア

学校によっては、屋内外の環境整備や学習支援・補助、図書館の整理・読み聞かせ、交通安全指導などに、保護者ボランティアを募集することがあります。できるときに、できる範囲で、参加・協力してみるのもいいですね。

## 子どもの意外な一面も見えてくる!

いろいろな活動に参加することで、家庭の外での子どもの様子を知ることができます。保護者自身も、交流を深め、よい人間関係を築いて、子育てに活かしましょう。

# 参加型家庭教育講座 プログラム例

**実施時期** 就学時健診時(10月中旬～11月)

**実施場所** 教室、多目的教室など(グループワークができる環境)

**準備物** ホワイトボードまたは黒板、付せん、付せんを貼る大きめの紙(B4またはA3)

	プログラム内容	ポイント
5分	<h2>アイスブレイキング</h2> <ul style="list-style-type: none"> <li>●子どもの普段の生活について質問し、当てはまるものに挙手してもらう。</li> <li>●講座内容について話す。</li> <li>●5～6人のグループをつくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●いろいろな子どもがいることを確認する</li> <li>●文字で明示する</li> </ul>
40分 } 45分	<h2>ワーク「心配なこと、なあに？」</h2> <h3>1.グループ内で情報交換</h3> <ul style="list-style-type: none"> <li>●入学するにあたって、心配していることや悩み事を各自で付せんに書き込む。</li> <li>●自己紹介を兼ねて、自分が書いた内容について話しながら1枚の紙(B4かA3)に貼る。</li> <li>●同じ内容のものをグルーピングする。</li> <li>●グループ内で意見を共有する。</li> </ul> <h3>2.意見発表・グループごとに、出た意見を紹介する</h3> <ul style="list-style-type: none"> <li>●付せんを貼った紙を黒板に貼り、全体で意見を共有する。</li> <li>●出された感想について学校側がコメントしたり情報を提供したりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●心配事や悩み事を積極的に出してもらう</li> </ul> <p>ガイドブックから1～2項目取り上げる。 学校や地域の実情にあわせた内容について活用するのが望ましい。</p>
10分	<h2>まとめ</h2> <ul style="list-style-type: none"> <li>●子育ての大事なポイントについて、ガイドブックを活用して説明する。</li> <li>●心配なことがあればいつでも相談してもらいたいということを伝える。</li> </ul>	<p>保護者と学校が連携して子どもたちの育ちを支援できるような関係をつくる。</p>

この講座は、参加者の「生の声」を引き出すことが大切です。気軽に発言できるように、クイズなどで場を和ませるとよいでしょう。

全員が情報を共有できるためにも、グループの人数は、多すぎないのがよいでしょう。

付せんに自分の意見を書いてもらうことで参加意識が高められます。また、他の人と同じような悩み事があれば、「悩みは自分だけではない」ことからの安心感が芽生えます。

付せんの数を決める必要はありません。時間や保護者の様子を見て2～3枚程度に決めておくともよいでしょう。また、情報交換の様子を見て、場合によっては助言してみてください。

出た意見について、学校生活に直接関係すること(学習、登下校、給食など)については、その場で学校側が回答すると保護者にも安心感が生まれます。

# みんなが笑顔になるための

## プログラム例



他には・・・こんな参加方法をおススメ！

◎ よい点    △ 注意すべき点

### 講演会型



◎専門家などから事例が聞ける。  
△自分の悩みを言う機会がない。

### 感染防止型



◎どこでも、参加できる。悩みを共有できるグループが作れる。  
△論点がずれることがある。  
△端末の操作方法やアプリの知識が必要。

実施時期 就学時健診時  
実施場所 グループワークができる環境  
準備物 黒板（ホワイトボード）、付せん、付せんを貼る大き目の紙

### ◎保護者同士のつながりをつくるのが大切！（特に、第一子の保護者を考えてグループを作ろう）

### フリートーク型

◎自分が悩んでいることが言える、答えてもらえる。  
△司会者がいないと、論点がずれることがある。また、的確な答えを出すことが難しい。



	フリートーク型のプログラム内容	ポイント●主催側 ○参加側
5分	<b>アイスブレーキング</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>●子どもの普通の生活について質問し、当てはまるものに挙手してもらう。</li> <li>●講座内容について話す。</li> <li>●5～6人にグループをつくる。（全員が発表できる人数）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●この講座は、参加者の「生の声」を引き出すことが大切。気軽に発言できるように場を和ませる。</li> <li>○いろいろな子どもがいることを確認する。</li> </ul>
40分 ～ 50分	<b>ワーク「心配なこと、ななに？」</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. グループ内で情報交換                     <ul style="list-style-type: none"> <li>●入学するにあたって、心配していることや悩み事を各自で付せんに書き込む。</li> <li>●自己紹介を兼ねて、自分が書いた内容について話しながら、1枚の大き目の紙に貼る。</li> <li>●同じ内容のものをグルーピングする。</li> <li>●グループ内で意見を共有する。</li> </ul> </li> <li>2. 意見発表・グループごとに、出た意見を紹介する                     <ul style="list-style-type: none"> <li>●付せんを貼った紙を黒板に貼り、全体で意見を共有する。</li> <li>●出された感想について学校側がコメントしたり情報を提供したりする。</li> </ul> </li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●心配事や悩み事を積極的に出してもらう。</li> <li>○付せんに自分の意見を書く。参加意識が高まり、他の人と同じような悩み事があれば、「自分だけではない」と安心感が芽生える。</li> <li>●付せん数を決めない。時間や保護者の様子を見て、情報交換を始める。</li> <li>●主催側がまとめ役となるか、参加側になるか、保護者の様子から判断する。人前が苦手な保護者に発表役をさせない。</li> </ul>
10分	<b>まとめ</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>●子育ての大事なポイントについて、ガイドブックを活用して説明する。</li> <li>●心配なことがあればいつでも相談してもらいたいということを伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●出た意見について、学校生活に関係すること（学習、登下校、給食など）について、その場で回答する。</li> <li>○希望と安心をもって、帰宅する。</li> </ul>

# 小学校での活用事例 その1

## 就学時健康診断の機会を利用(羽生田小学校) (内科検診に保護者が付き添うタイプ)

グループごとに順番に呼ばれて受診。  
その間の待ち時間と保護者全員が揃ってからの  
30分間を使って実施

平成25年 10月30日(水)

会場：ランチルーム

対象者：47人

13:55～ 校長あいさつ

14:00～ 健康診断及び全体説明会(並行実施)

Aグループ	Bグループ	Cグループ	Dグループ	Eグループ
健診		学校説明		
学校説明		グループワーク 「心配なことなあに？」		
グループワーク 「心配なことなあに？」		健診		健診
15:10～ 保護者全員が集合 「家庭教育講座」(30分間程度)		グループワーク続き		

## 健診の順番を待っている間に、 グループワークを実施

- 付せんに入学にあたって不安なことや心配なことを書き出す。
- 一人ずつ不安なことを言いながら付せんに貼っていく。(例えば、「今までバス登園だったから、一人で学校まで無事に歩いて行けるか心配。」など)
- 終わったところは、付せんに書いたことやその他子育てについて自由に話し合う。



校長先生のあいさつ  
子どもたちも静かに聞いていました。



健診の順番を待っている保護者の方に  
グループワークの説明をしました。



付せんに書き込んでいます。このころから  
保護者の表情が柔らかくなってきました。



どんなことを不安に思っているのかな？  
先生も気になるところです。



グループワークで、子育てについて  
話し合った後なので、みなさん、  
集中して講座を聞いていました。



最後に、保護者と学校が一緒になって  
子どもたちの育ちを支えていけるような関係を  
築いていくことが大事であることを伝えました。

## 健診の順番待ちの時間を有効に活用

羽生田小学校では、内科検診に保護者が付き添うことから、自分のグループが呼ばれるまで、待っている時間がありました。保護者全員がそろうのは、最初と最後だけでした。そこで、小刻みに空いた時間を有効に活用するために、グループごとの個別の待ち時間を利用してグループワークを実施しました。

保護者全員がそろってからの講座は、30分程度のまとまった時間を確保し、ポイントを絞ってお話しました。

いきなりの付せんを使ってのグループワークに対する保護者の方々の反応が心配されましたが、みなさん、難なく作業をしていました。

特に、付せんを書くことで、必ずすべての保護者が声を出すので、保護者同士の話しやすい雰囲気づくりができました。

次に入学説明会などで会ったときに、「あ、こんにちは」といえるつながりができました。

### 使った資料はこれ!

「ほめることの効果」

「話の聞き方で心をつなぐ」

「子育てで大事なことは、さじ加減」

学校の意向や地域性などを考慮して選びました。



## 小学校での活用事例 その2

### 就学時健康診断の機会を活用(八千浦小学校) (内科検診に保護者が付き添わないタイプ)

保護者全員が揃っている60分間を使って実施

平成25年 11月18日(月)

会場：視聴覚室

対象者：32人

14:30~15:30 「家庭教育講座」

14:30~ ●クイズ「あてはまるのは？」

・子どもについていくつか質問をして、当てはまるものに挙手してもらう

14:40~ ●ワーク1「心配なことなあに？」

・入学に向けて悩みや不安なことを付せんに書き込み同じグループで1枚(B4)の紙に貼りながら情報交換

●資料を使って話を聞くことの大切さを伝える

15:00~ ●ワーク2「ほめる言葉」

・ほめる言葉をできるだけ多く書き出し、グループで共有する

15:10~ ●資料を使って子育ての大事なポイントを説明



かなり緊張した雰囲気でしたが…



グループになっての話し合いが始まると、だんだん盛り上がってきます。



ほめる言葉「すごいね!」「できたね!」「やったね!」「いいね!」…他には?



保護者の方が、どのような事を不安に思っているのが傾向が一目で分かります。

### 2つのワークで飽きずに参加でき、距離も近くなります

八千浦小学校では、60分間のまとまった時間を確保していただけたので、2つのグループワークを取り入れました。「入学にあたって不安なこと」と「ほめる言葉」です。

ほめる言葉をできるだけたくさん書き出してもらいました。中には15個以上書いた人も。書いた言葉をグループで見せ合うことで、たくさんの褒め言葉をもち帰っていただき、家庭で使ってもらうのがねらいです。

時間的に余裕があるため、話し合いの時間も十分とることができました。

#### 使った資料はこれ!

「子どものやる気をサポート」

「ほめることの効果」

「話の聞き方で心をつなぐ」

「子育てで大事なことは、さじ加減」

資料を拡大して、黒板に貼るという使い方もできます。

## 講座までの流れ

### 学校と講師の日程調整

- 打合せの日程確認
- 当日の日程確認 (場所や人数等)

### 学校との打合せ

- 学校の様子や保護者の傾向
- 学校が保護者に伝えて欲しい内容
- 会場の準備等

### 講師から 学校への連絡

- 学習プログラム 送付
- 資料の送付
- 準備物の確認等

### 講座の実施

詳しくは上記参照

### 講座についての反省・協議

- 保護者の様子や反応について
- 資料や講座の進行について
- 学校からの感想や意見、課題

## 小学校での活用事例 その3

### 学習参観の機会を活用(村上南小学校)

平成25年 7月11日(木)

	学習参観
14:30～	校長によるミニ家庭教育学級 ↑ ココの時間を活用!
14:45～	学年懇談会



●兄弟姉妹等もあるなか、1・2年保護者の6割程度が家庭教育学級に参加しました。家庭教育の講演会では、参加者を集めるのに苦労しますが、このようなミニ家庭教育学級を時々位置づけることで、継続的に学習の機会を提供していくことができます。

●4つの資料を使ったことで、夏休み前の子どもたちの生活や親子関係を考える良いきっかけとなりました。

●基本的な生活習慣や人間関係など様々な面から家庭教育支援を考えるような機会となりました。

●全家庭数の半数以上が参加しました。学校評価の説明会後に続けたことで、学校で取り組んできた「あいさつ」や「就寝時刻」などについて、学校と家庭の共通理解を図る場となりました。

●子どもと過ごす時間が増える夏休みを前に、子どもに自信をもたせ自立を促す親の関わり方について、「ほめることの効果」の資料を活用して、担任自身の経験をまじえながら分かりやすく説明することができました。

●そのままコピーして使える手軽さから、「お手伝いができる子に」、「生活のリズムをつくるポイント」、「睡眠ってこんなに大切」の資料も使いながら、限られた時間を有効に活用して、保護者への協力を呼び掛けました。

ガイドブックをそのまま印刷し  
配付資料として活用!

使った資料はこれ!

「正しい生活リズムをつくるポイント」  
「睡眠ってこんなに大切」  
「子育てで大事なことは、さじ加減」  
「あいさつで築く人間関係」

### 学校評価説明会の機会を活用(本田小学校)

平成25年 9月20日(金)

13:50～	授業参観
14:45～	学校評価説明会
	●校長 あいさつ
	●取組の報告(知育・徳育・体育) ●教頭 その他の報告、事務連絡
15:45～	校長による家庭教育のお話 ↑ ココの時間を活用!
16:15～	学年・学級懇談会



使った資料はこれ!

「睡眠ってこんなに大切」  
「正しい生活リズムをつくるポイント」  
「ほめることの効果」  
「あいさつで築く人間関係」

### 夏休み前の学年懇談会の機会を活用(出雲崎小学校)

平成25年 7月10日(水)

13:55～	授業参観
14:55～	学年懇談会(1,2年生)
	学級担任挨拶
	●子どもたちの様子
	●夏休みの過ごし方 ↑ ココの時間を活用!
	●夏休みの課題について
	●懇談



使った資料はこれ!

「ほめることの効果」  
「お手伝いができる子に」  
「正しい生活リズムをつくるポイント」  
「睡眠ってこんなに大切」

# 小学校での活用事例 その4

## 就学時健康診断の機会を活用 (明治小学校)

平成25年 11月8日(金)

14:50~15:30

保護者全体会の中で活用

- ① あいさつ(校長)
- ② 入学前をお願いしたいこと(教務主任)



## 個別懇談の機会を活用 (明治小学校)

平成25年 11月26日(火)、  
27日(水)、28日(木)

14:00~16:45

個別懇談の時間を活用

それぞれの学年ごとに資料を選択し、  
個別懇談会の資料として配付(各担任)

## 保護者の不安を軽減する

子どもへの接し方が具体的に示されているので、分かりやすく伝わったようです。

また、資料を活用することで、学校の取組を紹介する機会にもなりました。

## 担任が必要な資料を選択する

生活アンケートや児童の実態から各担任が「より定着させたい生活習慣」や保護者と「共通理解が必要な内容」の資料を配付しました。

また、必要に応じて、面談中に資料をもとにした話しを進めることもありました。これらの取組を通して、担任の思いや児童の課題が明確に保護者に伝わるといふよが見られました。

ガイドブックをそのまま印刷し  
配布資料として活用!

### 使った資料はこれ!

来年度入学する児童の保護者に  
「あいさつで築く人間関係」  
「ほめることの効果」

### 使った資料はこれ!

1年生では、  
「子育てで大事なことはさじ加減」。  
6年生では、「睡眠ってこんなに大切」  
「ほめることの効果」など、  
それぞれの学年で担任が資料を  
選択しました。

## 学校だよりに活用 (和島小学校)

学校だよりの最終ページに「家庭教育支援ガイドブック」の資料を掲載しています。

資料No.1から順にシリーズで連載していく予定です。

1面

2面

3面

4面

学校だよりは、全戸配付なので、  
入学前の子どものいる家庭にも  
家庭教育の情報を届けることが  
できます。

# 小学校や公民館講座での活用事例 その5

就学時健診の機会を活用  
(上越市立富岡小学校)  
令和3年10月28日(木)



食育活動から展開する家庭教育講座で活用  
(主催：サークルきらら 共催：燕市教育委員会)  
＜年5回シリーズで実施＞



- 翌年度春に小学校に就学するお子さんのいる保護者15名が参加しました。
- 開会の挨拶として講座のねらい等を説明した後、簡単なアイスブレイク活動を行い、グループワークを行いました。
- グループワークでは、「子育てについての具体的な悩み」について意見交換をし、互いのやり方や気持ちを共有しました。
- 「保護者同士のつながりが持てた。」や「悩みを共有できて気持ちが楽になった。」などの感想がありました。

## 「らんらんランチ会」

	内容
10:30～	開会 調理開始
11:45～	・絵本の読み聞かせ ・家庭教育支援ガイドブックを活用し、親子で座学 (ココの時間を活用！)
12:00～	振り返り

- 講座の担当者として、上越市家庭教育支援チーム「すまいる桜援団」のメンバーを招き、同じ世代の子どもを持つ親として参加者と接していただきました。
- 保護者同士で子育てに対するねらいを共有したことで、我が子だけでなく地域に住む子どもたちを健やかに成長させようとする「見守りの目」をもつようになりました。

- 親子で参加し調理を体験します。親だけの参加もあり、家庭教育ガイドブックを活用した学びの時間を設定しています。
- メニューは絵本をテーマに考えています。また、調理には子どもがお手伝いできる内容を入れ、親子で調理する楽しさを感じることができるようにしています。
- 平成29年度から令和3年度までに16回実施しています。延べ約200名の親子が参加しました。

使った資料はこれ！  
「話の聞き方で心をつなぐ」  
「話を聞くときのポイント」  
「ほめることの効果」

使った資料はこれ！  
「睡眠ってこんなに大切」  
「お手伝いができる子に」  
「話の聞き方で心をつなぐ」

就学時健康診断の機会を活用  
(村上市立瀬波小学校)  
令和4年10月6日(木)



- 13:30～ 学校長あいさつ  
市教委指導主事のお話  
日程説明
- 14:00～ 外部講師による講話(45分)  
↑ココの時間を活用!
- 15:00～ 健診結果配付

○ 村上市家庭教育支援チーム with の方を講師に迎え、村上市教育委員会生涯学習課と連携した取組のひとつです。

○ 「子どもの安心とやる気をサポートしよう!」をテーマにして、①コミュニケーションによる信頼関係の土台づくり②ありのままの子どもを認める言葉がけについて、家庭教育支援ガイドブックの資料を活用して、講師自身の経験を交えたり、ペアトークを取り入れたりしながら行いました。

【参加者の声】

- ・「子育てを振り返るよい機会になった。」
- ・「講演を聞いて、子どもを褒めるようにしようと改めて思った。」
- ・「子どものできることに目を向けるようにしたいと思った。」

【学校の声】

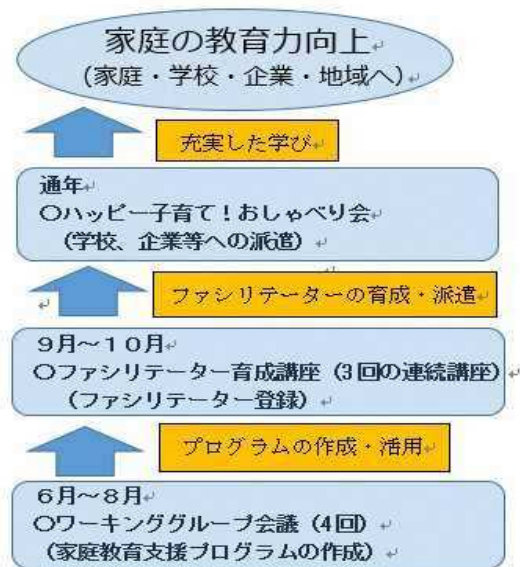
今回の取組は、村上市教育委員会生涯学習課が運営したことにより、学校職員の負担軽減につながりました。また、本取組を通して、村上市との連携をさらに深めることができました。

【派遣事業名「ハッピー子育て!おしゃべり会」】  
(新潟市教育委員会)



「写真：ワーキンググループ会議の様子」  
新潟市では、家庭の教育力向上を図るため、令和3年度から市民と協働で「家庭教育支援プログラム」を作成するとともに、同プログラムを活用して保護者同士の話し合いを進めるファシリテーターの育成と派遣に取り組んでいます。

「ハッピー子育て!おしゃべり会」までの流れ



○令和4年度は、市内3校の小学校で、PTA行事や就学時健康診断において「ハッピー子育て!おしゃべり会」を実施しました。「話し合いを通して共感や学びが多くあった」「同じ年代の子どもをもつ保護者と知り合えてよかった」など、保護者同士が満足感をもってつながる場となりました。

使った資料はこれ!  
「家庭教育ガイドブック活用リーフレット」  
「ほめることの効果」「話をきくときのポイント」  
「話の聞き方で心をつなぐ」

使った資料はこれ!  
「子育てで大事なことはさじ加減」  
「見てますよ 聞いてますよ」

# 家庭における人権教育

## 家庭における人権教育の推進

子ども一人ひとりがかげがえのない存在として尊重し、個性を生かすとともに、他人への思いやり、命や人権を尊重する豊かな心を育むことが大切です。

### ★愛情と厳しさをもって育てましょう

ささいなことでも「できた」ことや努力したことなど、子どものよさを見つけ、愛情をもって大いにほめましょう。そして、してはいけないことをしたときは厳しさも必要です。



「ほめることの効果」(P14)  
「子育てで大事なことは、さじ加減」(P16)もご覧ください。

### ★子どもの話を聞きましょう

大人が子どもの話に耳を傾けることは、子どもを認めることにつながります。子どもは愛情を感じ、家庭の中での存在感を実感していきます。



「話の聞き方で心をつなぐ」(P12)  
「話を聞くときのポイント」(P13)もご覧ください。

### ★日常の生活を通して身につけさせましょう

家庭において、しつけや道徳観、正義感や人を思いやる心などを日常の生活を通して子どもに身につけさせましょう。

また、子どもが学んだことを共通の話題にするなど、学びを共有していくことも大切です。



「子どもと一緒に、いじめについて考えてみましょう」(P17)もご覧ください。



## 人を差別するような子にはなってほしくない

親は、子どもがいじめに加わったり、他人を差別し傷つけていることに気づいたときには、それが人間として恥ずかしい行いであることを教える責任があります。

その際、理屈であれこれ言うより、子どもを愛していること、すてきな人に育ててほしいこと、弱い者をいじめたり差別したりするのを見てショックだったこと、人が傷つくのを喜ぶことに怒りを感じたこと、二度としてほしくないこと、など親としてのほんとうの気持ちを伝える努力をしましょう。

また、まず親自身が偏見をもたず、差別をしない、許さないということを、子どもたちに示していくことが大切です。



## 子どもは親の姿を見て学んでいく

親に感謝し、親を思いやる心は、広く他人を思いやる心の基となる大切なものです。まず親が自らの祖父母を大切に作る姿を見せることを心がけましょう。

大人たちは、自らの親への接し方や、思いやりのある社会のために何が重要かについて、子ども自身から問われているのだということを考えましょう。



## いじめは人間として恥ずかしい行いだ

いじめは、力の弱い子どもや、まじめに努力する子ども、周りに安易に流されないため「異質」とみなされた子どもなどを標的にする卑怯な行いです。悪いのはいじめる子どもであって、「いじめられる側にもそれなりの理由がある」などということは全くの間違いです。

いくら軽い遊びや悪ふざけ、ジョークのつもりでも、いじめられる側の痛みは深刻であることを理解させ、いじめることは、人間として決して許されないことであり、いじめをはやし立てたり傍観したりすることも同じである、ということを家庭の中できちんと話し合ひましょう。そして、自分の子どもがいじめをしているとわかったら、必ずすぐにやめさせてください。

また、いじめる子の中には、親から暴力や強いプレッシャーを受けるなど、家庭でも学校でも居場所がない子どもが多いと言われます。子どもが楽しめるものを見つけ、心が満たされるように配慮するなど、いじめをしない心の環境づくりをしましょう。

# 「新潟県人権教育基本方針」を知っていますか？

～親の責務を理解し、子どもの人権尊重の精神を育てましょう～

私たちが生きる社会では、人間の生命や権利などに関する様々な問題が発生しています。みなさんはどのくらいご存じでしょうか。

新潟県教育委員会では、人権教育、同和教育の取組を一層進めることを目的に「新潟県人権教育基本方針」を制定、改定しています。



偏った情報をもとに特定の立場の人を攻撃していませんか？

インターネットやSNS等を通じて、多くの情報を収集したり発信したりされています。情報を簡単に手にできる反面、偏った情報をもとに差別や偏見などを助長する手段にもなり得ます。

インターネット上の情報を安易に鵜呑みにしていませんか？

親として、子どもの様子に目を配りましょう。「人権を守ること」は、「自他の命を守ることである」と認識できるかどうかが問われています。



## インターネットによる人権侵害を防ぐために

- ・研修会に参加して、様々な人権問題を正しく理解しましょう
- ・人権教育や道徳の授業等を参観して、お子さんの学びを知りましょう
- ・社会や身近な出来事について、お子さんの成長に合わせて話題にしましょう

## 個性や多様性を尊重し合うために



今日、問題になっていることは何でしょうか？

近年では、感染症患者やその関係者、性的マイノリティ、外国にルーツをもつ人などの人権侵害が注目されています。このような人権侵害は、インターネット上で深刻化しています。誰もが情報を発信できるインターネット上には、誹謗中傷を含んだ差別情報が数多く存在します。それによって尊い命が奪われるような痛ましいケースも生じています。

家族の何気ない言動が、子どもに誤った情報を刷り込んだり偏見や差別を助長したりする場合があります。

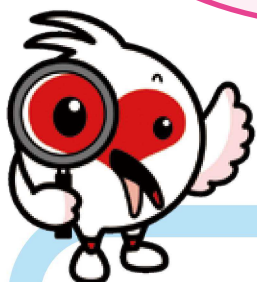
豊かな人権感覚を身に付けるためには、幼児期からの家庭教育がとても重要です。





# 始めましょう 家庭で読書

いい本に出会うことは、  
いい人に出会うことに  
似ている。



一番すてきな本は、  
お父さん・お母さんの  
声で読む本だ。



子どもの読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造性を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身につけていく上で欠くことのできないものです

【子どもの読書活動の推進に関する法律の基本理念】

本を読む子を育てるためには、小さな時から本に親しむことが大切です。

感動的な一冊の本は、子どもの感性や情緒、想像力をはぐくみ、読書習慣を身につけるきっかけともなります。

始めましょう！ 家庭で読書！



# 親子読書のすすめ

親子のぬくもりを感じながら優れた絵本に接し、一緒に共感し合うひときは、子どもの感性や心を豊かにする貴重な時間になります。

「親子読書」は、子どもにとってうれしい時間の一つです。親子(家族)のふれあいを通して読書のすばらしさを次の世代に伝えていく、そんな「親子読書」を、始めてみませんか。



## 小学校低学年くらいまでは…

子どもたちに読書の楽しさを伝えるには、「読み聞かせ」がよいと言われています。絵本や物語はもちろん、昔話、なぞなぞ、ことばあそびの本など、多くのジャンルから本を選び、子どもの世界を広げてあげましょう。

## 親子読書の例 ~その1~

- 子どもを膝の上に乗せて一緒に絵本を読みます
- 眠る時に子どもの枕元でおはなしを読み聞かせます
- 子どもと一緒に声を出してことば遊びの本を楽しみます
- 地域の読み聞かせイベントに子どもと一緒に参加します
- 子どもと一緒に本を見ながら、料理を作ったり工作をしたりします

チェックしてみましょう



## 小学校中学年以上になったら…

読み物や物語の楽しさを味わったり、科学や社会の本への興味を深めたりするとよいと言われています。優しさや思いやりなどの豊かな心や、知る楽しさなどの知的な好奇心が育ってゆくでしょう。

また、周りの大人が読書を楽しむ姿を見せることも大切です。子どもと一緒に図書館や書店に行き、本を選んだりする姿を見せてあげてください。家族みんなで読書を楽しむ時間をもてるといいですね。

チェックしてみましょう

## 親子読書の例 ~その2~

- 子どもと一緒に図書館や書店に出かけます
- 1冊の本をそれぞれが読み、家族で感想を語り合います
- 家族で「読書の時間」を設けて、その時間にそれぞれが好きな本を読みます(ダウンメディアデーやノーメディアデーに合わせて、取り組んでみましょう)



## 家庭教育支援の推進に関する検討委員会報告書の概要

# つながりが創る豊かな家庭教育

～親子が元気になる家庭教育支援を目指して～

### 1. 家庭教育をめぐる現状と課題

#### 家庭教育をめぐる社会動向

- 1) 家庭環境の多様化や地域社会の変化
  - ・多様化する家庭が抱える様々な課題（経済的問題、児童虐待、過干渉や過保護）
  - ・自然な教育的営みが困難になった家庭生活の変化
  - ・子育て家庭の社会的孤立
- 2) 現代の子どもの育ちをめぐる課題
  - ・社会性や自立心等の育ち（不登校、暴力行為、ニート）
  - ・体験の格差や経済格差の子どもの育ちへの影響懸念
- 3) 家庭教育が困難になっている社会
  - ・家庭の教育力の低下と認識されているが、家庭は家庭教育に努力している傾向
  - ・親子の育ちを支える人間関係が弱まっており、社会経済も変動しており、「家庭教育の困難」と認識する必要
  - ・家庭教育が困難な家庭への支援は重要な社会的課題

#### 家庭教育支援の課題

- 1) 子の誕生から自立までの切れ目のない支援
  - ・乳幼児期は人間形成に重要だが、子育ての自信や対処能力が不足しがち、また自立の時期の支援も重要
- 2) 届ける支援（アウトリーチ）と福祉等との連携
  - ・課題を抱えた家庭が児童虐待等、課題が深刻化することのないよう、孤立しがちな家庭へ届ける支援が必要
  - ・困難な課題を持つ家庭には、専門的支援、福祉的支援のための支援のネットワークが必要
- 3) 多様な世代が関わり合う社会で、子どもの育ちを支える
  - ・コミュニケーション能力、自己肯定感等、不足しがちな力を育むための体験や交流機会が重要
- 4) 地域の取組の活性化
  - ・地域の課題に応じた取組の活性化や地域資源の活用

### 2. 家庭教育支援のあり方

#### 基本的な方向性

- 1) 親の育ちを応援する
  - ・発達段階に応じたかかわり方についての学習が必要
- 2) 家庭のネットワークを広げる
  - ・子育て家庭の人間関係を広げていくことが重要
- 3) 支援のネットワークを広げる
  - ・地域人材と専門支援をつなぐ仕組みづくり

#### 重要な視点

- 1) 親の主体性を尊重し、支援の循環を生み出す
  - ・親の意欲を高め、支え合う
- 2) 子どもも家庭や社会の一員として役割を持つ
  - ・子どもの発達資産形成の観点から支援や協力が必要
- 3) 子育て家庭を支える人間関係とシステムを持つ地域づくり
  - ・地域コミュニティの創造と地域の活性化

### 3. 家庭教育支援の方策

- 1) 親の育ちを応援する学びの機会の充実
  - 親の育ちを応援する学習プログラムの充実
    - ・体験型・ワークショップ形式の学習
    - ・虐待予防に資する子どもとのコミュニケーションやストレスの対処方法及び震災後の心のケアなど社会的課題への対応
  - 多様な場を活用した学習機会の提供
    - ・子育てひろば等への学習プログラムの提供、ファシリテーター派遣などの乳幼児期の子育て支援の充実
    - ・学級懇談会等を活用した親の学び合い・共同学習
    - ・企業への出前講座、父親の学びと参画促進
  - 将来親になる中高生の子育て理解学習の推進
    - ・乳幼児との触れ合い活動
- 2) 親子と地域のつながりをつくる取組の推進
  - 家庭を開き、地域とのつながりをつくる
    - ・NPO等によるカフェ形式の交流の場や親子参加イベント
  - 学校・家庭・地域の連携した活動の促進
    - ・学校支援活動や放課後子ども教室に保護者等を巻き込む取組
- 3) 支援のネットワークをつくる体制づくり
  - 地域人材による家庭教育支援チーム型支援の普及
    - ・小中学校区等を単位としたチーム型支援の普及
    - ・活動拠点の提供や研修機会の提供等の環境整備
    - ・主任児童委員との連携によるアウトリーチ活動の充実
  - 課題を抱える家庭に対する学校と連携した支援の仕組みづくり
    - ・生徒指導等と連携した家庭への訪問や相談対応
    - ・スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーとの連携
    - ・高校中退者の家庭に対する親の相談対応等
  - 人材養成と社会全体の子育て理解の促進
    - ・ファシリテーター等の養成、専門的助言、人材認証・登録
    - ・サポートの役割が期待される高齢者等の学びの機会の提供
    - ・企業による親子参加行事や職場体験活動への協力
- 4) 子どもから大人までの生活習慣づくり
  - ・企業と連携した生活習慣づくり
  - ・生活の自己管理が可能になる中高生向け普及啓発

### 4. 国と地方自治体の役割

- 市町村 家庭教育支援活動をコーディネート
- 都道府県 広域的ネットワーク構築、人材養成等
- 国 基本的方向性を示し、取組の普及や向上を図る
- 保健福祉等の関連分野と家庭教育支援の連携

## 家庭教育支援に役立つ情報リンク集

文部科学省や新潟県等の家庭教育に関するリンクをお知らせします。

○文部科学省家庭教育支援サイトはこちら

「子どもたちの未来をはぐくむ家庭教育」<https://katei.mext.go.jp/>

子供たちの未来をはぐくむ **家庭教育** 文部科学省 文科省HPはこちら ▶

### 家庭はすべての教育の出発点

子供たちにとって「家庭」は安らぎのある楽しい居場所  
社会へ巣立っていくために欠かせない場所  
親の笑顔が子供の笑顔をつくります。  
親子が共に学び、育ち合う「家庭教育」を地域全体で応援する。  
そんな「やさしい社会」が、  
子供たちの「未来(あした)」をはぐくんでいきます。

ライブラリ → 詳しく見る

「お父さん」「お母さん」を楽しもう!学ぼう! → 詳しく見る

地域で家庭教育を応援しよう! → 詳しく見る

食事や睡眠をしっかりとり、  
学習や運動に取り組めるようにしましょう!

早ねおき朝ごはん → コミュニティサイトはこちら

○県内の子育てや保育、生活支援、DV、児童虐待等についての相談はこちら  
「子育て等についての相談窓口」

<https://www.pref.niigata.lg.jp/sec/kodomokatei/200428sodan.html>

○子育てやしつけのヒントなど、知っておきたい家庭教育の知識はこちら

「家庭教育手帳」<https://www.pref.niigata.lg.jp/sec/syogaigakushu/1199377208696.html>

○心豊かな子どもの育ち応援サイトはこちら

「そだちのヒント365」

<https://www.pref.niigata.lg.jp/m/sec/syogaigakushu/1287608463905.html>

○親と子どもの規則正しい生活づくりはこちら

「早寝早起き朝ごはん」全国協議会 <https://www.hayanehayaoki.jp/>

子どもたちにもっと体験活動を！

なかよく たのしく 元気よく



## 新潟県少年自然の家

新潟県少年自然の家には、カヌー活動や野外炊さん、創作活動、自然観察等、親子で楽しむことのできる活動が多くあります。

「地域のPTA行事」や「地域の親子サークル」等でお申し込みください。「家族の絆を深め」「家族の思い出の1ページ」になるよう、所員一同全力でお手伝いします。

親子でカヌー活動



親子で体験活動！

### 「親子で参加」できる主催事業

- 家族でカヌーに親しもう  
・ 8月開催予定
- 自然・ふれあい！家族の集い  
・ 12月開催予定  
・ 2月開催予定
- 一緒にお泊りキャンプinたいない  
・ 11月の土日開催予定

親子でケーキ作り



親子で焼き杉板作り



親子でクリスマスリース作り



親子でキャンプファイア



「体験は人を育てる！」と言われます。水上でのカヌー活動や遊歩道でのオリエンテーリング、冬は雪の中の自然を散策するスノーシュー活動など、魅力的な活動が盛りだくさんです。

新潟県少年自然の家

〒959-2602 新潟県胎内市乙1503-166  
☎ 0254-46-2224 📠 0254-46-3070

Home page /



Twitter /



# 子どもたちにもっと体験活動を！

独立行政法人国立青少年教育振興機構

## 国立妙高青少年自然の家

自然体験や友達との外遊び、お手伝いなどの子どもの頃の体験は、子どもの成長の糧であり、人生の基盤になります。自然豊かな妙高青少年自然の家での体験を通し、子どもたちを元気にたくましく成長させませんか？



### 体験プログラム

- ・野外炊事
- ・源流探険
- ・星座観察
- ・森遊び
- ・深雪探険
- ・かまくらづくり etc

### 多様な体験活動の効果

自然体験や生活体験、お手伝いを多く行っている子どもは、自立性・積極性・協調性など自律的行動習慣が身についている傾向があります。自律的行動習慣が身についている子どもほど自己肯定感が高く、心身の疲労感が少ない傾向になるといった調査結果があります。

※独立行政法人国立青少年教育振興機構 調査研究より



### 親子で参加できるイベントも！

「キッズアドベンチャー 源流探険」

毎年 8月の土日2日間開催 幼児対象

「親子でブッシュクラフト！」

毎年 10月の土日1日開催 小学3~6年生対象

「世界とつながる！親子ハロウィンひろば」毎年 10月最終日曜開催 幼児・小学生対象

※詳しくはホームページを確認を ※その他、冬のイベントも開催予定です

まずは、お電話でお問い合わせを

施設の利用方法や  
イベント情報は  
こちらをチェック！

# 0255-82-4321

(住所) 〒949-2235 新潟県妙高市大字関山6323-2

ホームページ



Instagram



YouTube



子どもたちにもっと体験活動を！

あそぶ・まなぶ・とまる

# 新潟県立こども自然王国

大自然の中にある大型児童館です。「遊んだ人から王様だ」のコンセプトのもと、児童が宿泊をしながら自然を活かした遊びや体験を行うことで、児童健全育成に努めています。



小学4年～大人におすすめ！

## カヌー教室

- ・7～8月の日曜開催 10:00～
- ・90分 2,000円（入浴付き）



保育園、親子に人気！

## コメパン作り

- ・平日団体やイベントで開催
- ・60分 800円（親子 1,200円）



週末は親子で参加できる  
体験プログラムを毎週開催！  
開催日：土日祝日



ウォークラリー



木工作



番神自然水族館（7～8月）



家族でひみつきち作り（10月）



親子トンボとり大会（10月）



雪っこ運動会（1～3月）

 **新潟県立こども自然王国**

〒945-1505 新潟県柏崎市高柳町高尾 30-33  
ホームページ：<https://www.garuru--kururu.jp/>  
E-mail：[info@garuru-kururu.jp](mailto:info@garuru-kururu.jp)

TEL:0257-41-3355  
FAX:0257-41-3515

開館時間 9:00～17:00  
休館日：毎週月曜（祝日の場合はその翌日）

ホームページ





【発行】新潟県教育委員会・新潟県地域家庭教育推進協議会  
〒950-8570 新潟県新潟市中央区新光町4番地1  
新潟県教育庁生涯学習推進課  
TEL 025-280-5617  
FAX 025-284-9396